

◎第5回理事会(37.10.30)出席者:藤井会長,岡本副会長,ほか理事6名。協議事項:1)研究受託について;a.コンクリート構造急速施工の研究, b.異形鉄筋の研究。2)ヨーロッパコンクリート委員会事務局長を招へいすることについて。3)工事誌, 工事記録の出版について。4)支部幹事長会議開催について。5)昭和38年通常総会と年次学術講演会開催地および開催日について。6)会員入退会。7)その他。報告事項:1)会計報告。2)刊行物申込一覧について。3)支部長, 委員会委員および幹事の委嘱について

a. 東北支部

支部長 小西則良氏(転勤のため)
後任 畑谷正実氏(建設省東北地方建設局長)

b. 海岸工学委員会

委員 畑谷正実氏(転勤のため)
後任 神田精夫氏(建設省河川局海岸課長)
委員 田中清氏(死去のため)
後任 室田明氏(大阪大学助教授)

c. トンネル工学委員会委員追加

委員 浜健介氏(国鉄建設局線増課) (施工)
" 田中堅太郎氏(電源開発土木部) (設計)
" 高山昭氏(国鉄静岡幹線工務局) (〃)
" 神保正義氏(日本道路公団工務部) (施工)
" 大江直三氏(帝都高速度交通営団) (〃)
" 天野礼二氏(国鉄岐阜工務局) (〃)
" 芥川真知氏(建設省土木研究所) (調査)
" 今西誠也氏(日本道路公団計画部) (〃)

d. PC鉄道橋設計施工基準研究小委員会

委員 長浜正雄氏 後任 富田善明氏(国鉄建設局)
幹事 国広哲男氏 後任 森岩治氏 後任 斎藤俊彦氏(国鉄建設局)
" 森岩治氏 後任 斎藤俊彦氏(国鉄建設局)
" 三浦誠夫氏 " 大山忠氏(国鉄施設局)
" 森野亮宏氏 " 小池晋氏(国鉄橋造物設計事務所)

e. 原子力土木技術委員会委員追加

委員 野口功氏(国鉄橋造物設計事務所)
" 北川義雄氏(鹿島建設技術研究所)
" 渡部与四郎氏(建設省計画局)

f. 耐震構造設計研究委員会

幹事 笹沼充弘氏(建設省) 後任
" 宮崎昭二氏(首都高速度道路公団) 新任

g. フライアッシュ小委員会

委員 太斎宗一氏 後任 中山謙治氏(電源開発)
" 平野硬太郎氏 " 吉田米三氏(常盤共同火力)

◎各種委員会

(1) 第1回会誌展望記事打合せ(37.9.17)出席者:八十島, 堀正副委員長, ほか2名。議事:1)総論執筆について八十島委員長の執筆内容案を検討, 永田, 渡部の両委員の分担を決めた。2)全部の原稿が集まった所で, もう一度打合わせる予定。

(2) 50周年記念会館建設委員会実行委員会合同会議(37.9.19)出席者:会館建設委員会 金子委員長, ほか委員4名, 実行委員会 五十嵐委員長, ほか委員6名。議事:50周年記念事業の一部として, 現在の敷地内で都の許可範囲を確かめ, 仮建築であることはいたしかたないが, 成るべく高級なものを作ること。

(3) 昭和37年度第2回八郎瀧干拓船越水道水理特別委員会

(37.9.21)出席者:本間委員長, ほか委員および幹事7名, 八郎瀧干拓事務所側10名。議事:1)八郎瀧干拓事務所長挨拶。2)委員長挨拶。3)議事録について。4)工事進捗状況について。5)現地視察にもとづく検討。6)測量調査結果について。7)水理実験について。8)次回委員会の件。9)報告書作成の分担について。なお9月22日に現地視察を行なった。

(4) 第2回トンネル工学委員会施工小委員会(37.9.20)出席者:住友主査, ほか委員8名。議事:1)前回本委員会の経過説明。2)示方書作成の方法について。3)国鉄線増課 浜健介氏を新委員に追加する。

(5) プレストレストコンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会幹事会(37.9.24)出席者:国分委員長, ほか委員および幹事11名。議事:設計施工基準制定のため打合わせた。

(6) 第4回原子力土木技術委員会(37.9.24)出席者:左合委員長, ほか委員8名。議事:1)第3回議事録について。2)原子力関連学会会議報告。3)原子力研究発表会講演会について。4)理事東海村見学について。5)東海村放射線防護対策の検討。6)プレストレストコンクリート圧力容器について。

(7) PC鋼材分科会(37.9.25)出席者:富田主査, ほか委員11名。議事:1)PC鋼材の引張試験における速度の影響。2)ひずみ, 応力曲線におよぼす引張速度の影響について。3)引張速度と引張特性との関係について。4)韓国交通部内6.7mm PC鋼線の弾性係数測定。5)長スパンのヤング率測定方法。6)PC鋼線の機械内性質におよぼす腐食の影響について。7)さびによるPC鋼線の性能変化について。8)PC鋼材の曝露腐食による疲れ強さの低下。9)張力を与えた硬鋼線の弦振動を利用したリラクゼーションの測定装置。10)その他。

(8) トンネル工学委員会設計小委員会(37.9.25)出席者:坂本主査, ほか委員8名。議事:1)示方書作成につき吉村委員提出の条文の検討を行なった。2)トンネルの実態調査をすることに決定。3)その他。

(9) 耐震構造設計研究委員会幹事会(37.9.26)出席者:委員および幹事17名。議事:1)37年度地震動測定計画について。2)荒川橋梁実験結果の検討。3)その他。

(10) 第3回出版企画委員会幹事会(37.9.26)出席者:荒井副委員長, ほか幹事長および幹事5名。議事:1)坂本アーチダム工事報告出版についての検討。2)コンクリート・ライブラリーの計画を了承。3)委員会関係出版物と会誌, 論文集の内容との調整については打合会の必要あり。4)新規出版物規準の検討。5)視聴覚資料の頒布についての検討。6)50周年関係出版物についての取り扱い。7)その他。

(11) 本州四国連絡橋技術調査委員会上部構造に関する専門部会幹事会(37.9.28)出席者:建設省側幹事4名, 国鉄側幹事2名。議事:1)前回専門部会議事録の処理について。2)資料リストの整理について。3)2ヒンジ補剛トラス吊橋の試算設計。4)2ヒンジ補剛トラス吊橋の試算設計指針。5)次回幹事会について。

(12) 地震工学国内シンポジウム運営委員会幹事会(37.10.2)出席者:岡本委員長, ほか幹事7名, 事務局4名。議事:1)現在までの経過報告。2)ポスターの作成について。3)参加券の作成について。4)PRの方法について。5)講演時間について。6)パネルの司会および列席者について。7)司会者依頼について。8)その他。

(13) トンネル工学委員会設計小委員会幹事会(37.10.2)出席者:幹事5名。議事:前回小委員会の決議によりわが国のトンネルの実態調査のリスト作成のための打合わせを行なった。

(14) コンクリート構造急速施工委員会打合せ(37.10.3)出

席者：関係者 18 名。議事：1) 実施要領について。2) 委員会構成について。

(15) トンネル工学委員会施工小委員会幹事会 (37.10.4) 出席者：住友主査，ほか委員 7 名。議事：1) 前回幹事会について取り扱うべき事項を検討。2) 分担について。

(16) 第 5 回会誌編集委員会 (37.10.5) 出席者：八十島，堀正副委員長，ほか委員 13 名。議事：1) 投稿原稿報告。2) 審査原稿報告。3) 依頼原稿状況。4) 1962 年の回顧と展望記事についての打合せの件。5) 48 巻よりの学会誌の編集方針については小委員会決定。

(17) 第 5 回文献調査委員会 (37.10.5) 出席者：千秋委員長ほか，委員および幹事 9 名。議事：1) 47 巻 12 号登載抄録の決定。2) 官庁・大学・業界・研究所等の外国雑誌備付リスト調査の件。3) 抄録依頼文献について。4) 抄録の注について。5) 次回委員会の件について。6) その他。

(18) 第 6 回会誌編集小委員会 (37.10.8) 出席者：八十島，堀正副委員長，ほか委員 8 名。議事：1) 47 巻 11 号の口絵，ニュース，ロータリー，豆知識などを決定。2) 47 巻 12 号は 1962 年の回顧と展望の特集号とし，他のものはなるべく入れないこととした。3) 新年号よりの編集方針について協議，次回の本委員会までに整理して登載する。4) その他。

(19) 土木賞・吉田賞主査幹事打合せ (37.10.9) 出席者：国分土木賞主査，土木賞幹事 3 名，吉田賞幹事 2 名。1) 議事：土木賞および吉田賞の内容について。2) 今後の運営の方法について。3) その他。

(20) 異形鉄筋実験打合せ (37.10.9) 出席者：関係者 13 名。議事：1) 異形鉄筋の研究分担案等につき打合せした。

(21) 異形鉄筋設計研究小委員会 (37.10.9) 出席者：国分委員長，ほか委員 8 名。議事：1) 鋼材クラブに報告する報告書の最終打合せを行なったが，まだ問題があるので幹事間で検討を行なうことになった。2) 表題（異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリート構造物の設計例），前書き，後書き，注意事項（担当深谷委員）などにつき打合せした。3) 講演会の開催方法について。

(22) 2 回無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会 (37.10.10) 出席者：国分委員長，樋口主査，ほか委員および幹事 25 名。議事：1) 無筋コンクリート標準示方書改訂原案について。2) プレバッド コンクリート施工指針について。3) 割増係数およびコンクリートの管理について。4) その他。

(23) 第 3 回論文集各部署委員会 (37.10.10) 出席者：第 1 部会・委員 5 名，第 2 部会・吉川部会長，ほか委員 6 名，第 3 部会・委員 4 名，第 4 部会・丸安部会長，ほか委員 3 名。議事：1) 前回部会長報告。2) 各部会で審査中原稿の審査報告。3) 新規受付原稿審査委員の決定。4) 土木賞について。5) その他。

(24) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準小委員会幹事会 (37.10.12) 出席者：国分委員長，ほか委員および幹事 7 名。議事：1) 衝撃係数の問題について。2) その他。

(25) 第 5 回原子力土木技術委員会 (37.10.12) 出席者：左合委員長，ほか委員 7 名。議事：1) 新委員の紹介。2) 第 4 回議事録の承認。3) 委員会 PR について。4) 朝日賞について。5) 旧原子力技術会議について。6) プレストレスト コンクリートによる原子炉圧力容器について。7) その他。

(26) 第 1 回水理委員会 (37.10.15) 出席者：伊藤委員長，横田副委員長，ほか委員 32 名。議事：1) 河川災害に関する水理学シンポジウムの開催計画および討議内容について。2) 第 8 回水理講演会の課題について。3) 第 10 回 IAHR 総会 (1963 年 9 月ロンドン) への出席者について。4) 水理公式集改訂委員会の運営経過について。5) 昭和 37 年度水理学研究の現況の編集に

ついて。6) その他。

(27) 海岸工学委員会 (37.10.16) 出席者：本間委員長，ほか委員 22 名。議事：1) 来年度の講演会その他行事について。2) 英文論文集原稿について。3) 国際会議開催について (1966 年の予定)。4) 設計便覧および用語集の件。5) 委員の交代の件。

(28) 第 2 回会誌展望記事打合せ (37.10.16) 出席者：堀副委員長，ほか委員 6 名。議事：1) 登載順位の決定。2) ページの関係もあるができるだけ編集委員の原稿をそのまま採択する。3) 写真を全体的にふやす。4) 重複箇所の調整は永田主査委員に一任。5) その他。

(29) 文献調査委員会打合せ (37.10.16) 出席者：千秋委員長，ほか委員 3 名。議事：1) 官庁・大学・業界・研究所等の外国雑誌備付リスト調査の件。各官庁・大学・業界・研究所等から返送された調査用紙の整理方法につき打合せした。

(30) トンネル工学委員会施工小委員会 (37.10.18) 出席者：住友主査，ほか委員および幹事 6 名。議事：1) 測量掘削について細部検討した。2) 各項目の分担の決定。(1) 測量：今田，(2) 掘削：浜，(3) ざり処理：浜，(4) 支保工：神保，(5) 型わく：天野，(6) 支保線：加納，(7) 覆工：渡辺，(8) 裏込め：大江。3) 委員の追加について。

(31) トンネル工学委員会設計小委員会幹事会 (37.10.19) 出席者：幹事 5 名。議事：1) わが国トンネルの実態調査のとりまとめにつき打合せした。2) 各幹事が分担をきめ，それぞれ次回小委員会までにプロットしたものを持ち寄る。

(32) 第 16 回フライアッシュ小委員会 (37.10.19) 出席者：国分委員長，ほか委員 16 名。議事：1) 第 15 回議事録について。2) 長期研究計画について；①委員会に報告された実験結果について，②供試体の作製ならびに保管状態について。3) 長期試験の報告について。4) 長期試験の実施について。5) その他。

(33) 第 3 回展望記事打合せ (37.10.20) 出席者：八十島委員長，ほか委員 2 名。議事：1) 記事の体裁，重複箇所の処理などを協議。2) 前回打合せの内容を一部変更。3) その他。

(34) 異形鉄筋設計研究小委員会幹事会 (37.10.22) 出席者：幹事 3 名。議事：1) 前回小委員会ではけん案になった問題点につき検討を行なった。

(35) 第 3 回出版企画委員会 (37.10.22) 出席者：佐藤委員長ほか委員および幹事 7 名。議事：1) 坂本アーチダム工事報告については理事会への説明資料として一般的に工事誌類の出版を行ないたいことを奥村幹事長より了承をうける。2) コンクリート・ライブラリーを条件つきで承認。3) 出版に関しての委員長会議を開くことを了承。4) 出版物の刊行基準を検討。5) 新規出版物の取り扱いを協議。6) 工高生むけの視聴覚資料の頒布事業については，三宅幹事が検討。7) 50 周年記念出版物については実行委員会に早く準備を進めるよう要請する。8) 学会内に土木に関する PR の委員会を作るよう理事会に要請する。

(36) 耐震構造設計研究委員会幹事会 (37.10.22) 出席者：岡本委員長，ほか委員および幹事 19 名。議事：1) 首都高速道路公園における耐震構造について。2) 不規則振動のスペクトル解析について。3) その他。

(37) 第 60 回耐震工学委員会 (37.10.22) 出席者：那須委員長，ほか委員 9 名。議事：1) 地震工学国内シンポジウムについて。2) 金井教授よりの委員会について。3) 宮城県北部地震報告書について。4) 学術会議連絡打合せについて。5) その他。

(38) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会幹事会 (37.10.23) 出席者：国分委員長，ほか委員および幹事 12 名。議事：1) プレストレスト コンクリート部材の安全率に関する検討。2) コンクリート橋標準示方書について。

3) フレシパッドの規格(案)。4) 新幹線用 P C 桁追加示方書 (P C 鋼材関係)。5) アンカー ボルトの計算法(案)。6) 許容応力の割増について。7) たわみについて。8) その他。

(39) 地震工学国内シンポジウム運営委員会幹事会 (37.10.24) 出席者: 岡本委員長, ほか幹事 4 名, 事務局 4 名。議事: 1) 司会, パネル司会, 列席者の確認およびその処理方法について。2) プログラムについて。3) プロージディングスについて。4) 会場設営について。5) 収支予算について。6) その他。

(40) 本州四国連絡橋技術調査委員会 上部構造に関する専門部会幹事会(37.10.25) 出席者: 建設省側幹事 6 名, 国鉄側幹事 6 名, ほか関係者 6 名。議事: 1) 耐風設計に関する調査計画(案)。2) 長大吊橋の耐風設計に関する調査(案)。3) 在来の研究資料について。4) 引用文献よりの図表集。5) 鋼橋 III における吊橋関係のリスト。6) Walt-Whitman 橋における上部工設計示方書。7) 東京タワーにおける設計風圧。8) 最大平均風速と瞬間最大風速。9) 本四連絡橋調査海洋気象調査打合わせ資料。10) 動的安定性に関する従来の研究。11) 海峡連絡参考文献。以上の資料を配布, 説明を行ない風に関する討論を行なった。

(41) 日本学術会議橋梁・構造学研究連絡委員会 (37.10.17) 出席者: 委員 5 名, 事務局 3 名。議事: 1) 学術会議次期選挙について。2) 国際会議の件。3) 次回委員会について。

◎その他

○第 7 回水理講演会 (37.10.15)

場 所: 都民ホール (東京都庁内)

演 題: 31 題 参加者: 約 130 名

○第 9 回海岸工学講演会 (37.10.16~17)

場 所: 都民ホール (東京都庁内)

演 題: 31 題 特別講演: 2 題 参加者: 約 150 名

○第 9 回橋梁構造工学研究発表会 (37.10.17)

場 所: 大阪建設会館 6 階会議室

演 題: 24 題 参加者: 約 150 名

○第 9 回海岸工学講演会見学会 (37.10.18)

見学会場所: 東京電力 K K 新東京火力発電所豊州工場・東京港および水門工事現場

参加者: 34 名

○第 12 回関東地区学生諸君のための映画会 (37.10.20)

参加者: 11 名

上映映画: 1. 工学入門シリーズ

(1) 文明の岩 (2) 鋼の橋 (3) 土と基礎

2. 合成桁橋実験

○秋のエキスカージョン (37.10.25~26 日の両日, 本部および中央支部共催・三重, 奈良県下の電源開発工事視察)

本年のエキスカージョンは電源開発 K K が施工中の紀伊半島北山川水系における電源開発工事および中部電力 K K が尾鷲市に建設中の尾鷲火力発電所を見学することとなり, 本部と中部支部共催のもとに参加者 61 名を得て盛大に行なわれた。

10 月 25 日早朝, 紀勢線尾鷲駅前に集合, 関係者の出迎えをうけて尾鷲商工会議所へ着き朝食, 岩城尾鷲市長 (代理) の歓迎挨拶, 西沢北山川建設所長の一般説明をうけたのち, バス, ハイヤー, ジープなどに分乗して 9 時同所を出発, 尾鷲第二発電所, クチスボダム, 第一発電所を詳細に見学する。

北山川筋開発工事は十津川とともに熊野川水系電源開発工事の一翼となるもので, 昭和 27 年より計画され, すでに十津川第一, 第二(出力 133 000 kW), 尾鷲第一, 第二(出力 65 000 kW) が開発されている。その諸元は表のとおりである。

第一発電所から狭い山道を車にゆられること 1 時間余で電発御自慢の坂本ダムのスマートなアーチが目前に現われる。高さ 103 m, 堤長 257 m, 頂部 4 m (底部 12.2 m) のダムがなだらかな曲面を見せて谷へ落ち込んでいる。日本の技術と機械のみで仕上げたというこのダムは工事誌を近く学会から刊行の予定である。暖かい日ざしを浴びつつダム上で昼食, 記念撮影をする。14 時ころ同所を出発同じ道を尾鷲までバックし中部電力が建設中の尾鷲火力発電所建設工事を見る。鈴木建設所長の一般説明および山田土建課長よりケーソン工事の説明をうけ, 中三重尾鷲港工事事務所長より埋立工事の苦心談をうかがった。埋立面積 10 万坪の敷地に 37.5 万 kW 2 基を運転する計画で,

なごやかに中食をする一行



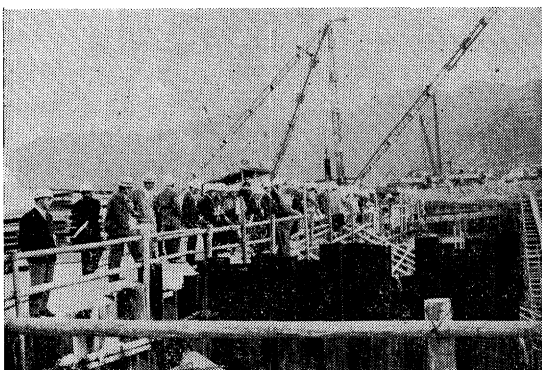
北山川諸地点開発計画一覧

ダム名		坂 (完 成)	本 成	ク チ ス ボ (完 成)	池 (工 事 中)	七 色 (予 定)	小 森 (予 定)
諸 元	型 式	コンクリートアーチ		コンクリート重力一部アース	ドーム型アーチ	ア ー チ 重 力	コンクリート重力
	高 堤 体 積	103 m	165 000 m ³	35 m	111 m	61 m	33 m
	利 用 水 深	40 m	40 m	28 500 m ³	640 000 m ³	217 000 m ³	43 000 m ³
	有 効 貯 水 量	68 000 × 10 ³ m ³	68 000 × 10 ³ m ³	4 m	35 m	4 m	5 m
	満 水 位 標 高	387.5 m	387.5 m	690 × 10 ³ m ³	220 000 × 10 ³ m ³	13 200 × 10 ³ m ³	5 500 × 10 ³ m ³
				137 m	318 m	192 m	120 m
発電所名		尾 鷲 第 一	尾 鷲 第 二	池 原	七 色	小 森	
諸 元	落 差	226 m	120 m	116.6 m	68.3 m	52.0 m	
	使 用 水 量	21 m ³ /sec	25 m ³ /sec	142 (一期) 342 (最終) m ³ /sec	140 m ³ /sec	102 m ³ /sec	
	出 力	40 000 kW	25 000 kW	140 000 (一期) 340 000 (最終) kW	80 000 kW	45 000 kW	
	集 水 面 積	97 km ²	131 km ²	300 km ²	462 km ²	564 km ²	
	運 開 予 定	37.4	36.9	39.1	未 定	未 定	

坂本ダムにおいて記念撮影



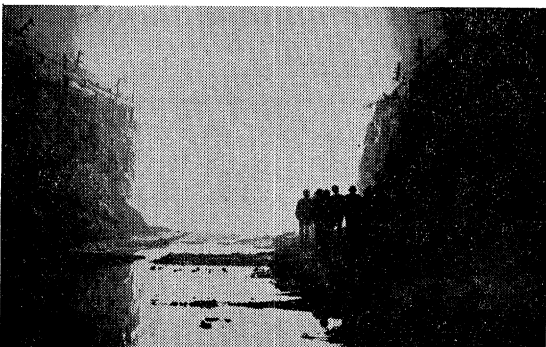
尾鷲火力発電所工事現場にて



尾根より見おろした地原ダム工事現場



放水路トンネルを見学する一行



第一期工事を196億円(39年8月運転開始)、第二期工事を154億円(39年10月運転開始)をもって同時に施工中である。三重県の埋立工事は驚異的なスピードでほぼ終了、第1,第2号機のボイラーおよび発電機の基礎工事を間組、白石基礎が請負っている。

広い現場を車や徒歩でくまなく一巡、熱心な質疑応答をくり返すうちに予定時間をすぎ、尾鷲市内の二軒の宿舎へ到着したのは17時近かった。地元有志によるにぎやかな「おわせ音頭」に始まる懇親会は19時より盛大な宴が五丈で行なわれ夜ふけまでなごやかな歓談が続けられた。

翌26日、眠い目をこすりながら7時39分発の列車にのり込み、南紀の海岸線を南下、熊野市へ8時半につき、ただちに電源開発池原ダム工事現場に向かう。三重より、奈良への道を1時間半ほどさかのぼり10時すぎ現場へ到着、ダムサイトを見おろす尾根よりその全ぼうを望見、雄大な構想に耳をかたむけながらカメラのシャッターを切る。骨材採集場、パッチャープラント、地下発電所、放水路トンネルなどを詳細に見学、揚水式発電所としては最大の規模をもつ大工事の無事完成を祈りながら帰途につく。途中、池峯ゴルフ場のクラブ・ハウスで昼食をとり、予定よりやや早く14時30分ごろ熊野市駅前で解散した。

このエキスカージョンの実施にあたり並々ならぬ御協力をいただいた電源開発KK 本社および北山川建設所、中部電力KK、三重県、奈良県、尾鷲市、熊谷組、間組、奥村組、佐藤工業、森本組、日本国土開発、白石基礎工事、大日本土木など関係各位の御厚意と御援助を厚く感謝する次第である。

支 部 だ よ り

◎東北支部

(1) 蔵王有料道路見学会 (37. 9.27)

行程：県庁前発(9.00)～蔵王ゲート着(11.20, 工事説明40分)～大黒天着(12.20, 昼食, 休憩1時間30分)～山形県境着(14.10, 工事見学20分)～県庁前着解散

参加人員：85名

(2) 役員会 (37.10.5, 仙台市クローバー)

出席者：畑谷支部長, ほか顧問2名, 常議員2名, 佐々木幹事長, ほか幹事6名。議事：1) 支部長委嘱について。2) 支部幹事交代委嘱について。3) コンクリート講習会報告。4) 海外事情講演会報告。5) 技術講座報告。6) 蔵王有料道路見学会報告。7) 本部と支部との懇談会のあらまし。8) 37年度第1次交附金の配賦について。9) 釜工業港模型実験の受託について。10) 11, 12月の事業計画について。11) その他。

(3) 講習会 (37.10.17, 土質工学会東北支部と共催)

場所：仙台市第一ビル9階ホール

砂地質における安定工法 東京大学助教授 渡辺 隆
最近の土質力学について 東京大学教授 最上 武雄

参加者：100名

(4) 幹事会 (37.10.22, 仙台市クローバー)

出席者：幹事5名, 議事：第2回技術講座開催について打合せた。

◎関西支部

(1) 防災ブロックに関する研究会 (37.10.4, 大阪建設会館)

① 防災ブロック積の施行について

滋賀県土木部河港課利水港湾係長 大柳 義雄

② 各種防災ブロックの特徴について

全国コンクリート製品協会関西支部長 関本 健一

参加者：51名 参加費：無料

(2) 商議員異動

退任：日本道路公団高速道路大阪建設局設計部
八木 寿氏 日本道路公団静岡建設所へ転出のため
委嘱：日本道路公団高速道路大阪建設局設計部
松村 存氏 を補選委嘱した。

(3) 第2回常議員会 (37.10.19, 土木学会関西支部事務局)
出席者：矢野支部長, 米谷幹事長, ほか常議員 19名, 幹事12

名。

(4) 第6回幹事会 (37.10.19, 土木学会関西支部事務局)
出席者：矢野支部長, 米谷幹事長, ほか幹事 12名。

◎西部支部

(1) 秋季講習会 (37.10.19)

1. 会場：九州大学工学部大講義室
2. 講師：7名 参加者：195名

編集後記

47巻12号という今年最後の学会誌を編集委員会かねてよりの念願であった「1962年の回顧と展望」で埋めることができました。写真や図表を極力ふやし、いくらかでも読みやすい形の三段組を採用いたしましたため、予定ページを大巾に突破してしまいました。いろいろヤリクリしてみましたが、他の記事は必要最小限度にとどめ、残りは新年号以降に繰りのべざるを得なかった点を深くお詫び申し上げます。

特集号とは申しながら展望記事も非常に準備期間が少なく、データも不足で、分類や内容などに御不満点が多いと思われるが、編集委員会としては精一杯のつもりです。テスト・ケースとして皆様の御批判をいただいた上で、来年、再来年……とより充実させ、毎年の12月号を見れば一応その年の土木界における動きがつかめる。といった小年鑑的な性格をもたせたいと考えております。

来年度の編集方針を立てるにあたり、最近の会員分布状況(77ページ参照)を分析してみますと、おのずから今後の行き方がわかります。つまり全体の2/3以上をしめる20才から40才の中堅層を対象とした内容でなければならないということを痛感します。今後も定期的に専門別まで読者層を分析し、編集上の貴重な資料にしたいと考えております。

48巻1号(新年号)は御約束どおり年内に皆様のお手許へ届くよう努力しております。期待していたのに余り変りばえがないではないか、とのお叱りを受けるかも知れませんが、「ローマは一日にして成らず」で、改善のレールを次第に速度を増して進みたいと考えておりますから、どうか忌憚のない御忠告を数多く御寄せ下さいませよう御願いたします。

そろそろ年末です。何かと御多忙のことと思いますが御自愛のうえ新しい年を迎えられるよう御祈りいたします。

【編集部 岡本・記】

会員入退会について(昭和37.10.1~10.31)

1. 入会	142名(正42 学96 特1.C 1 特1.D 2 特2 1)
2. 復活	6名(正)
3. 退会	20名(正19 特1.B 1)
4. 死亡	2名(名誉1 正1)
5. 転格	10名(学→正9 特1.B→特1.A 1)

特別員の入退会

入会	昭和37.10.29	特1.C	K.K. 建成社	東京都
	" 10. 1	特1.D	日本オйлレス工業 K.K.	"
	" 10.26	"	日本舗道 K.K. 仙台支店	仙台市
	" "	特2	琉球大学附属図書館	沖縄
転格		特1.B→特1.A	日本国土開発 K.K.	東京都

会員現在数(昭和37年10月31日現在)

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特1.A	特1.B	特1.C	特1.D	特2	計	(増)
46	13 370	1 417	30	15	16	27	157	241	21	15 340	(126)

名誉員	岩崎雄治君	安部工業所	昭和37.9.28死去	73才
正員	野中潔君	KK 間組	" 10. 2 "	40才

昭和37年12月10日印刷

昭和37年12月15日発行

土木学会誌 第47巻 第12号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社 技報堂

東京都港区赤坂溜池5番地

発行者 末森猛雄

発行者 社団法人 土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200円(送料20円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5138・5139 番